

令和6年中の交通事故の発生状況について

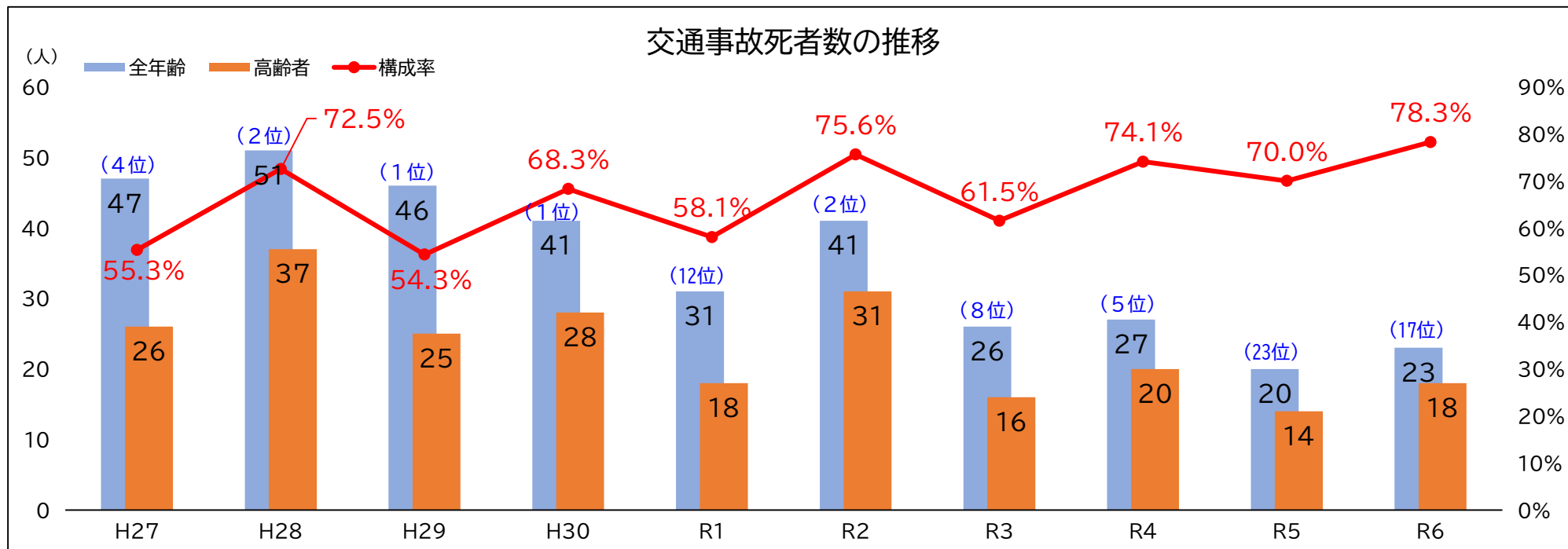
福井県警察本部
交通企画課

1 交通事故の発生状況



	総事故数	人身事故				物損事故数
		件数	死者数	傷者数		
				軽傷者数	重傷者数	
令和6年	21,574	964	23	1,100	213	20,610
令和5年	21,582	986	20	1,133	200	20,596
増減数	-8	-22	+3	-33	+13	+14

- ・死者数23人は、記録が残るS23以降2番目に少なく、近年の減少傾向を維持
- ・死者に占める高齢者の割合は、78.3%と増加傾向
- ・人身事故件数は減少するも、重傷者数は増加



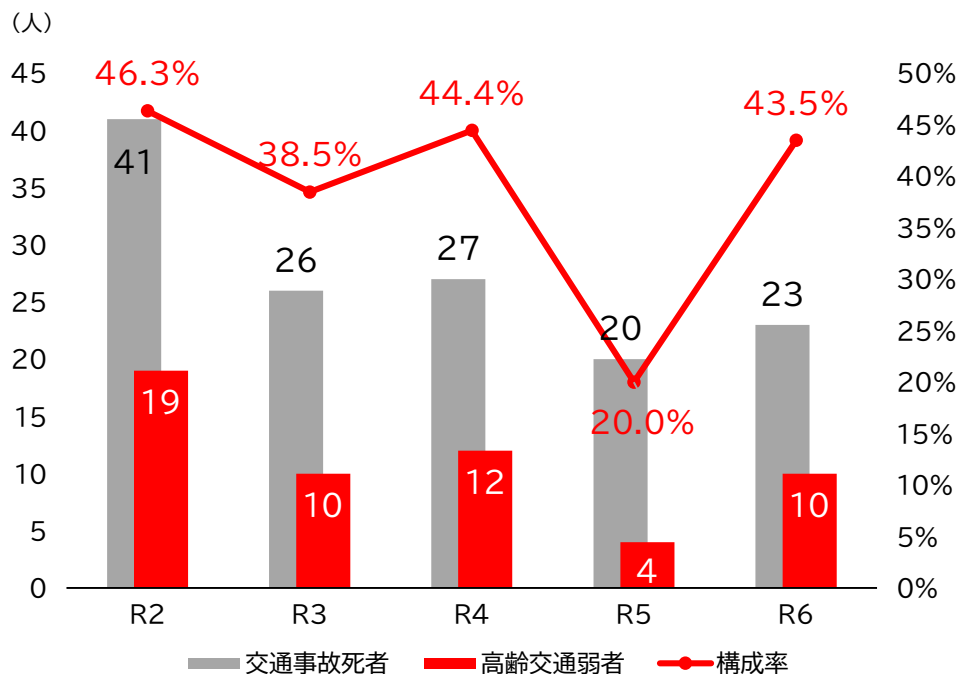
(注1) 構成率は全年齢死者数に占める高齢者(65歳以上)死者数の割合をいう。

(注2) カッコ内順位は、人口10万人当たり死者数のワースト順位。

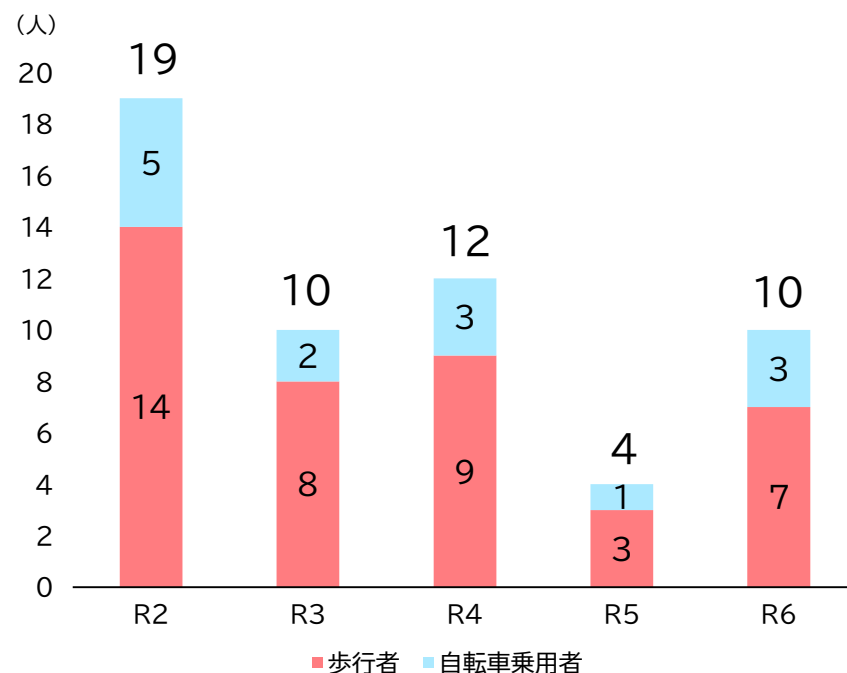


(1) 高齢交通弱者の死者が増加

高齢交通弱者の死者数



高齢交通弱者の死者の内訳



(注1) 「交通弱者」とは、歩行者及び自転車乗用者をいう。
 (注2) 構成率は、交通事故死者数に占める高齢交通弱者死者数の割合。

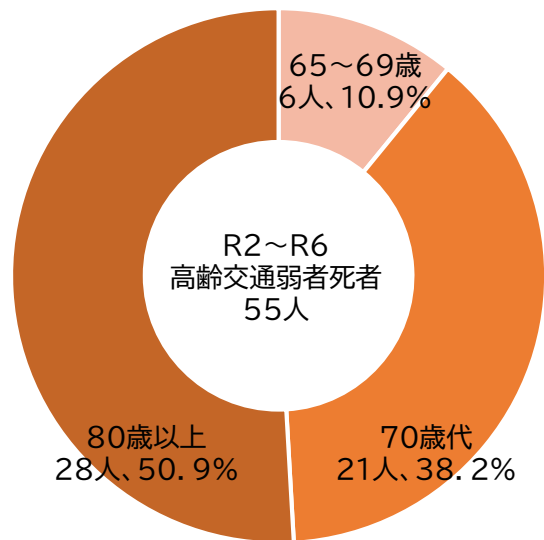
- ・高齢交通弱者が、交通事故死者の約4割を占める
- ・高齢交通弱者の死者は6人増加(歩行者が4人増加、自転車乗用者が2人増加)
- ・高齢歩行者7人は全て道路横断中で、うち2人が横断歩道横断中

2 交通死亡事故の特徴

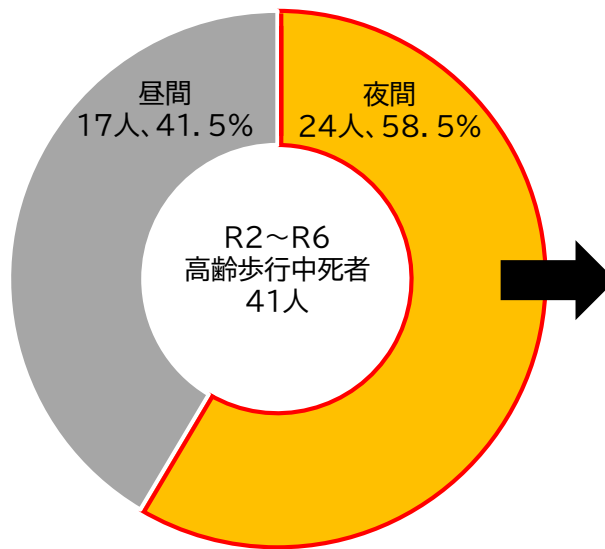


(1) 高齢交通弱者の死者が増加

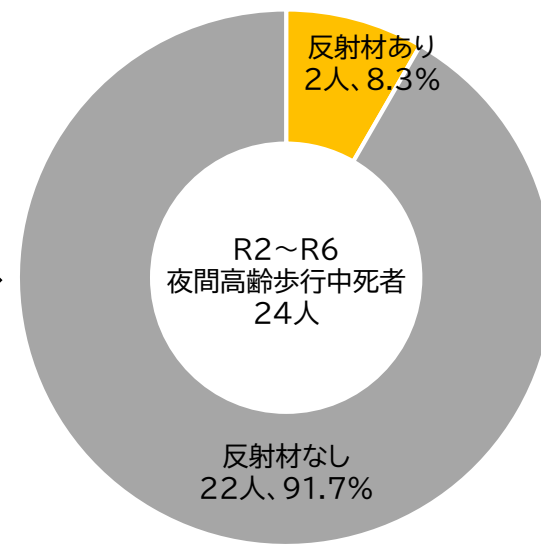
年代別・高齢交通弱者の死者数



昼夜別・高齢歩行中死者数



夜間高齢歩行中死者の反射材着用状況

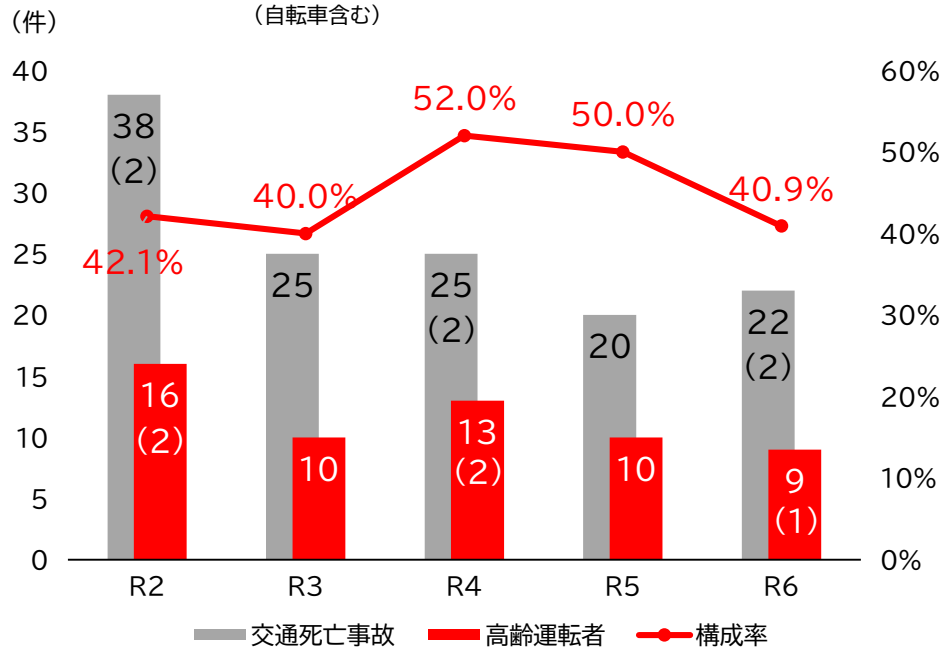


- ・高齢交通弱者の死者(55人)の半数以上(28人)が80歳以上
- ・高齢歩行中死者(41人)の約6割(24人)が夜間歩行中
- ・夜間歩行中死者(24人)のほとんど(22人)が反射材非着用



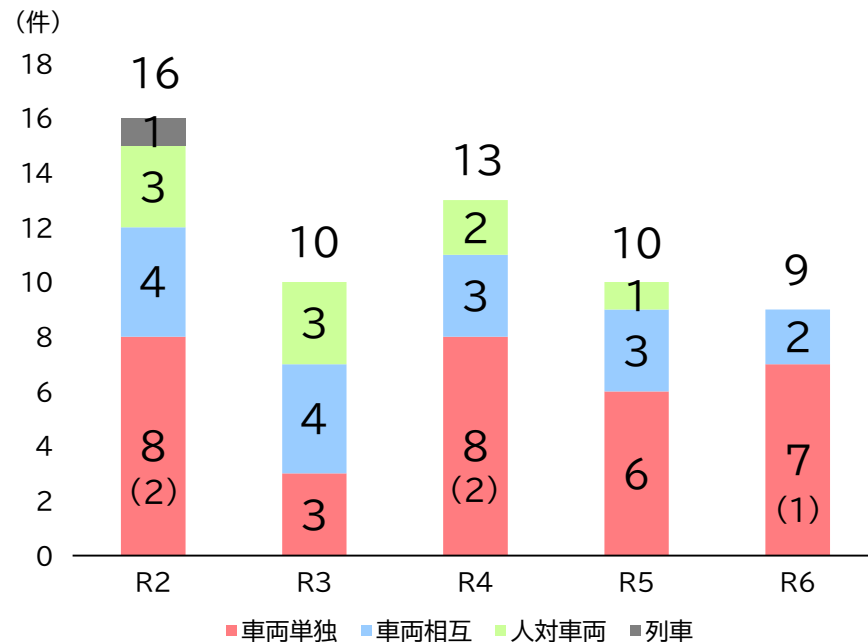
(2) 高齢運転者の割合が減少

高齢運転者による交通死亡事故件数
(自転車含む)



(注1) 交通死亡事故件数は、歩行者が第1当事者となる事故を除く。
 (注2) 構成率は、運転者(自転車含む)が第1当事者となる交通死亡事故件数に占める高齢運転者(自転車含む)の件数の割合。
 (注3) カッコ内数値は、自転車乗用者が第1当事者となる件数。

事故類型別・高齢運転者による交通死亡事故件数



(注) カッコ内数値は、自転車乗用者が第1当事者となる件数。

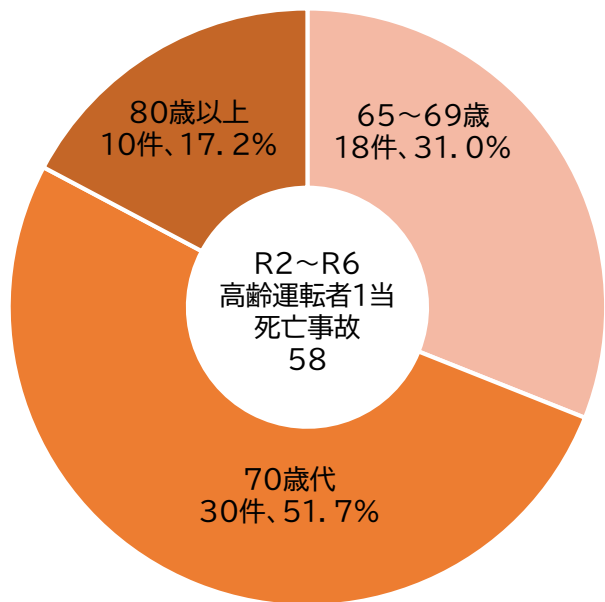
・運転者が第1当事者となる交通死亡事故のうち高齢運転者が占める割合は、前年に比べて9.1pt減少

・9件中7件が車両単独事故
 ・9件中1件は自転車乗用者(単独事故)



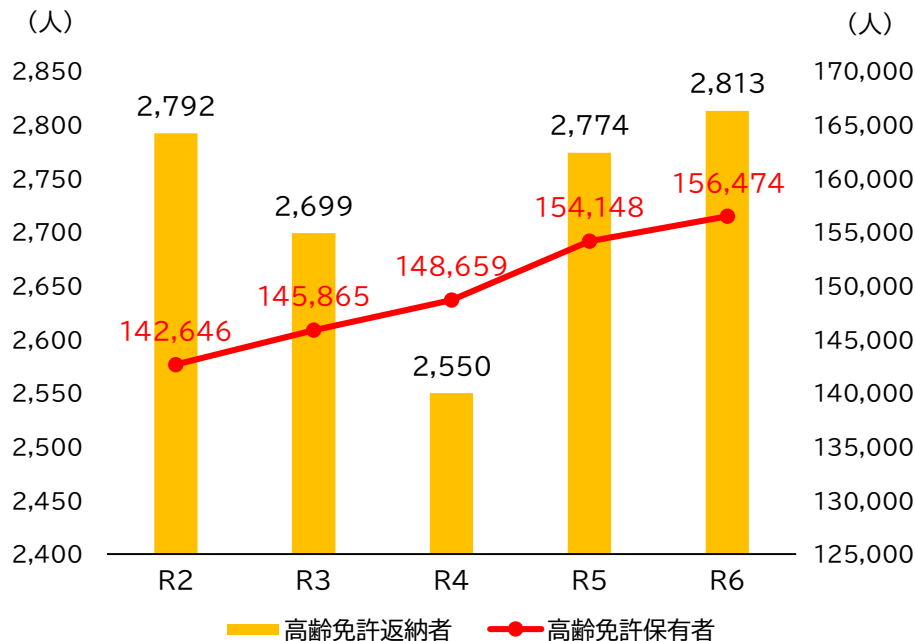
(2) 高齢運転者の割合が減少

年代別・高齢運転者による交通死亡事故件数
(自転車含む) (R2~R6)



- ・高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故の約半数は70歳代
- ・平均年齢は73.4歳

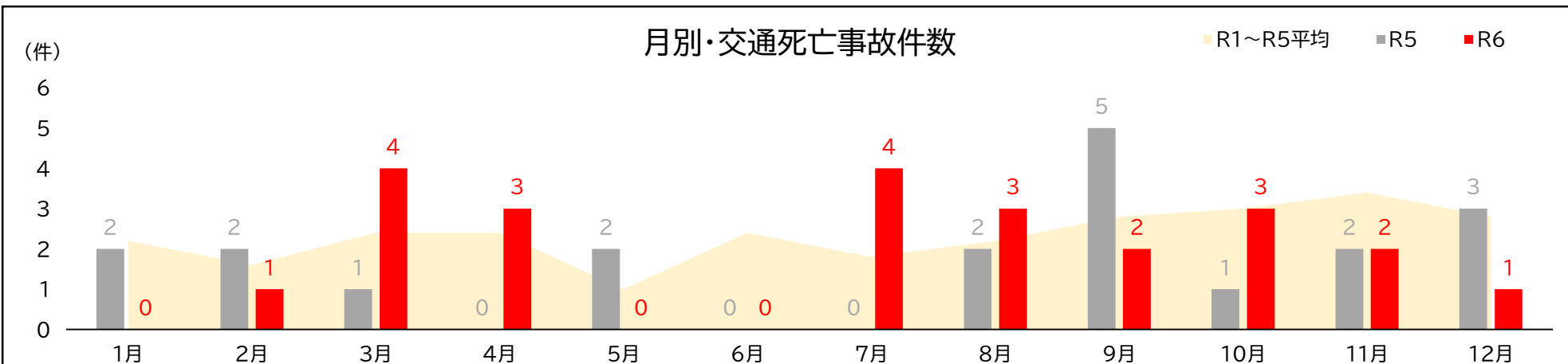
高齢免許返納者数及び高齢免許保有者数



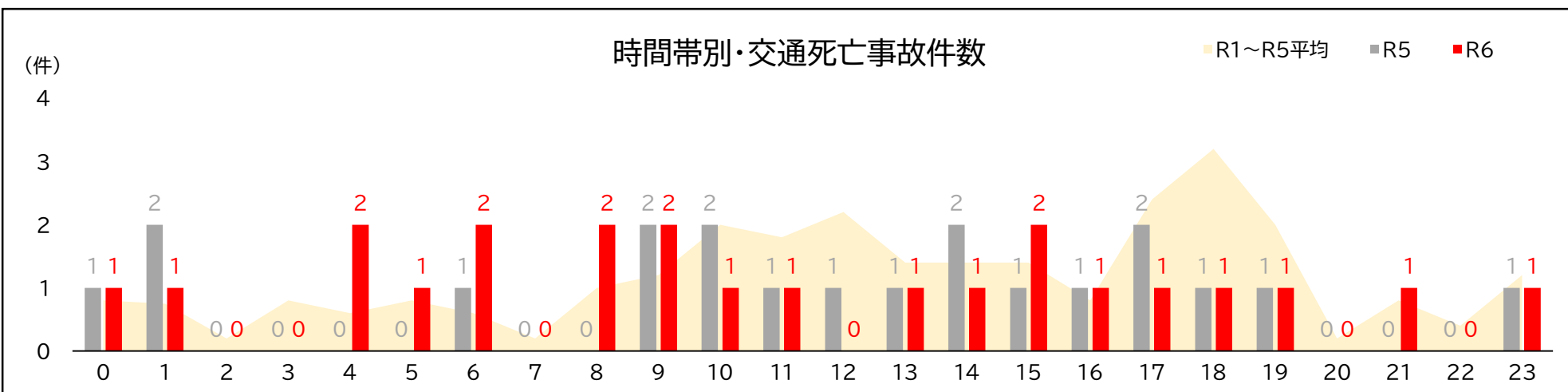
(注) 免許保有者数は、各年12月末時点の値。

- ・高齢免許保有者は、年々増加
- ・高齢免許返納者は、2年連続増加

2 交通死亡事故の発生状況

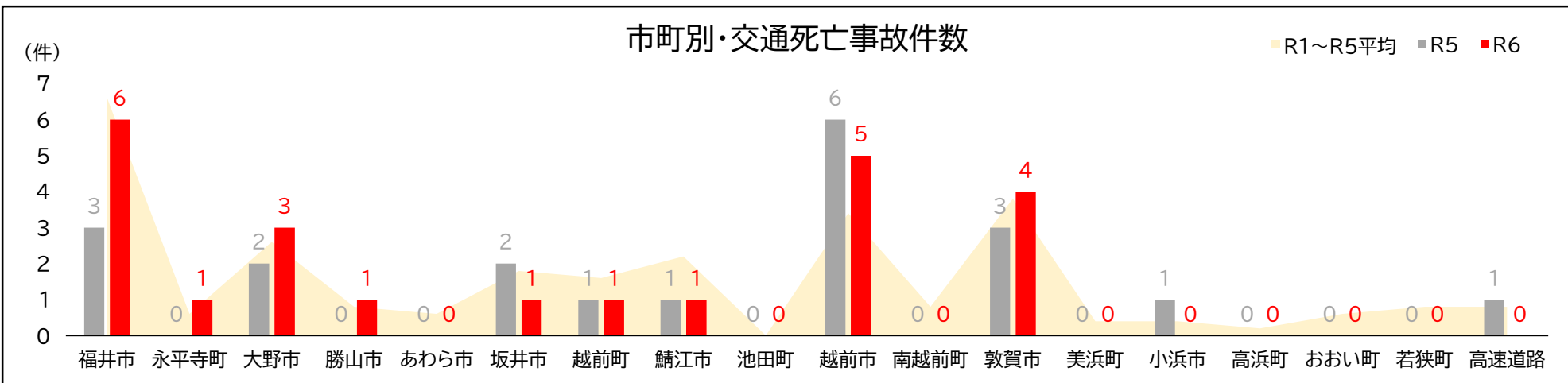


・3月、4月、7月が特に増加(+10件) ・10月以降は、減少傾向を維持

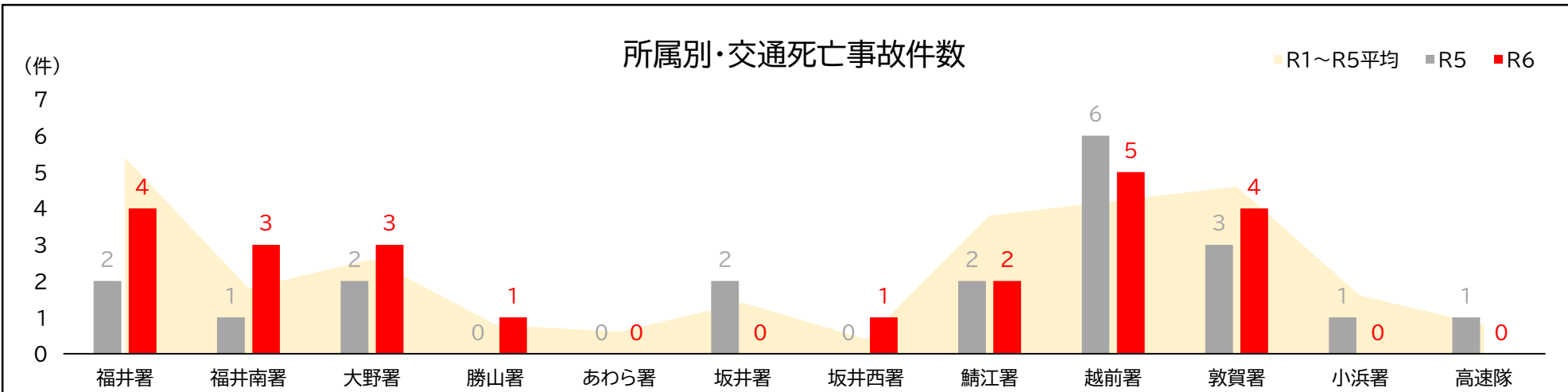


・R1~R5平均と比べると10時台~12時台、17時台~19時台が特に減少

2 交通死亡事故の発生状況

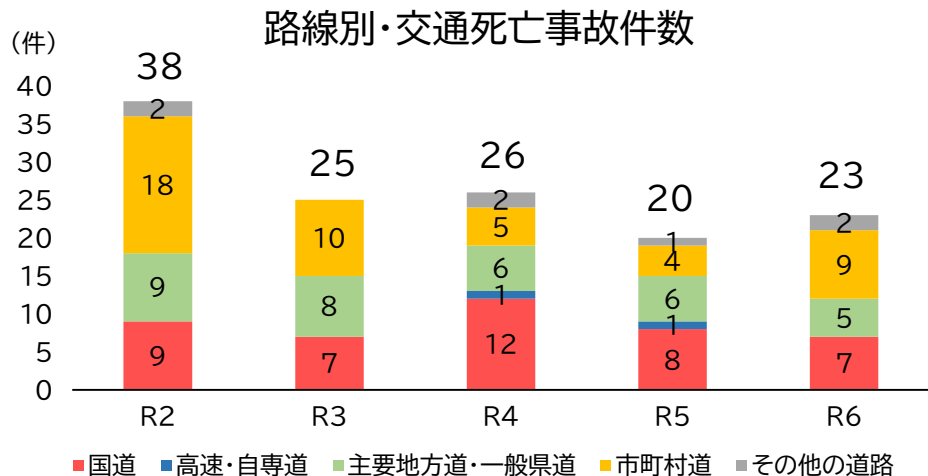


・福井市(6件)、越前市(5件)、敦賀市(4件)の順が多い

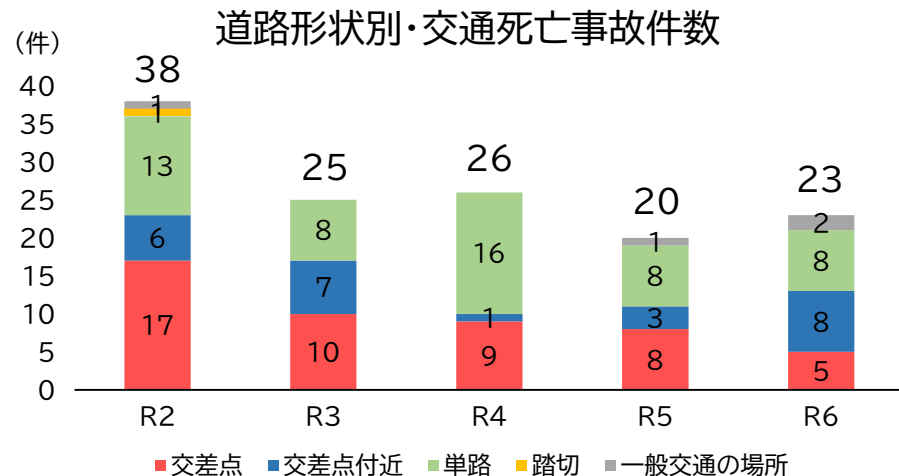


・越前署(6件)、福井署・敦賀署(4件)、福井南署・大野署(3件)の順が多い

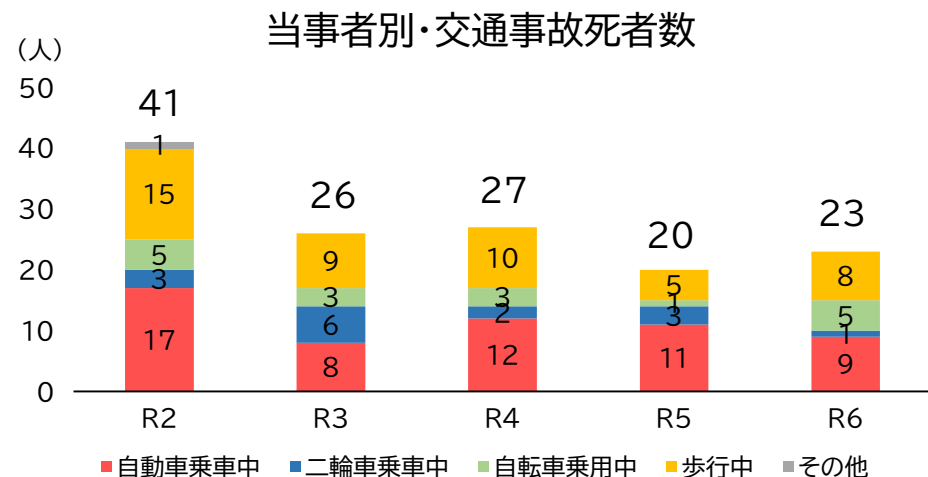
2 交通死亡事故の発生状況



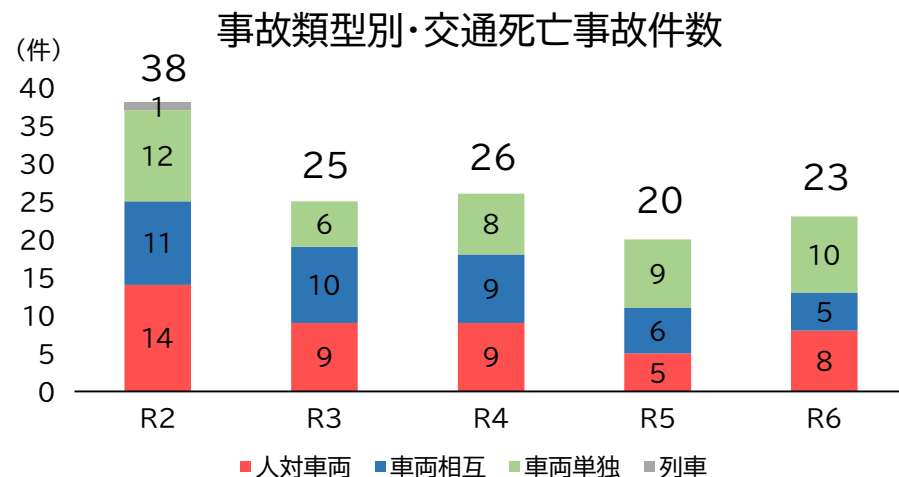
約半数を県道以上の幹線道路が占める



約半数を交差点及びその付近が占める



約半数を歩行中、自転車乗用中死者が占める

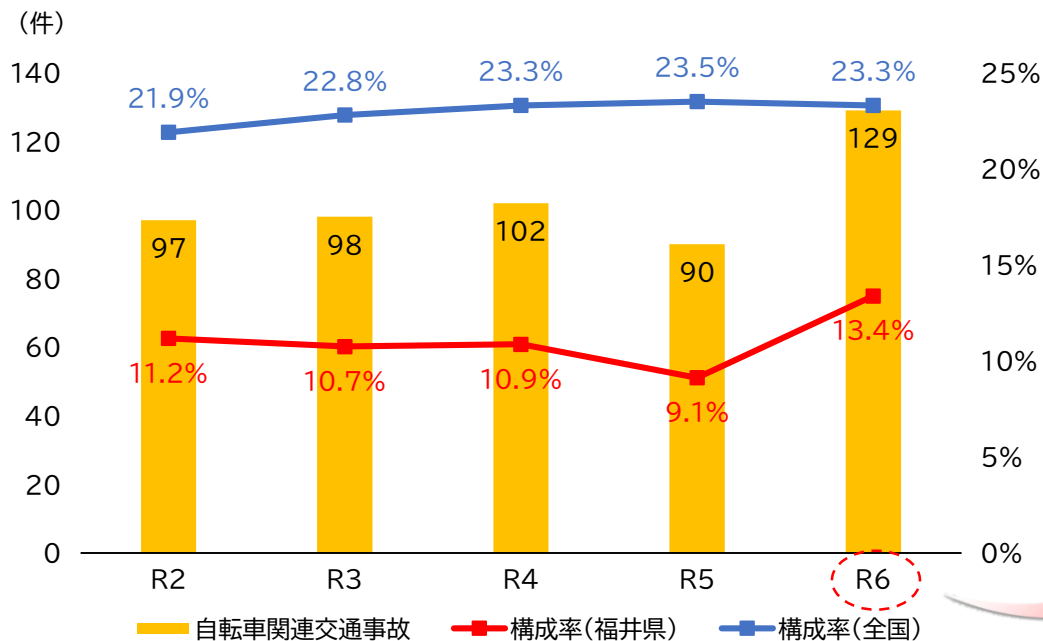


車両単独が増加傾向

3 自転車関連交通事故の発生状況



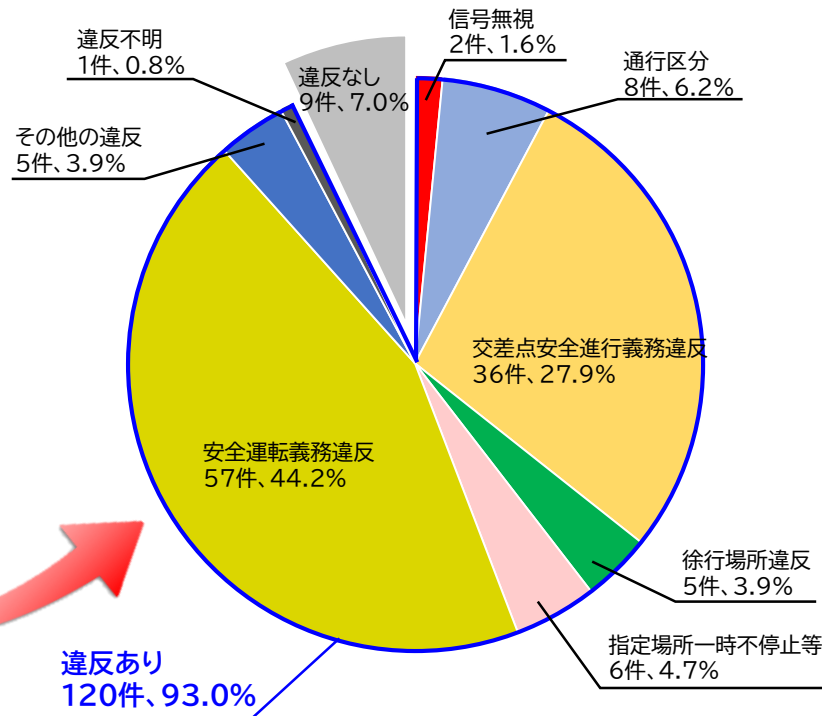
自転車関連交通事故件数



(注1) 「自転車関連交通事故」とは、自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故をいう。自転車同士の事故は1件として計上。
 (注2) 構成率は、全人身事故件数に占める自転車関連交通事故件数の割合。
 (注3) 全国の構成率は、令和6年11月末時点。

- ・前年に比べ39件増加
- ・全人身事故件数に占める自転車関連交通事故件数の割合は、概ね全国の約半分で推移

自転車乗用者(1・2当)の法令違反件数(R6)



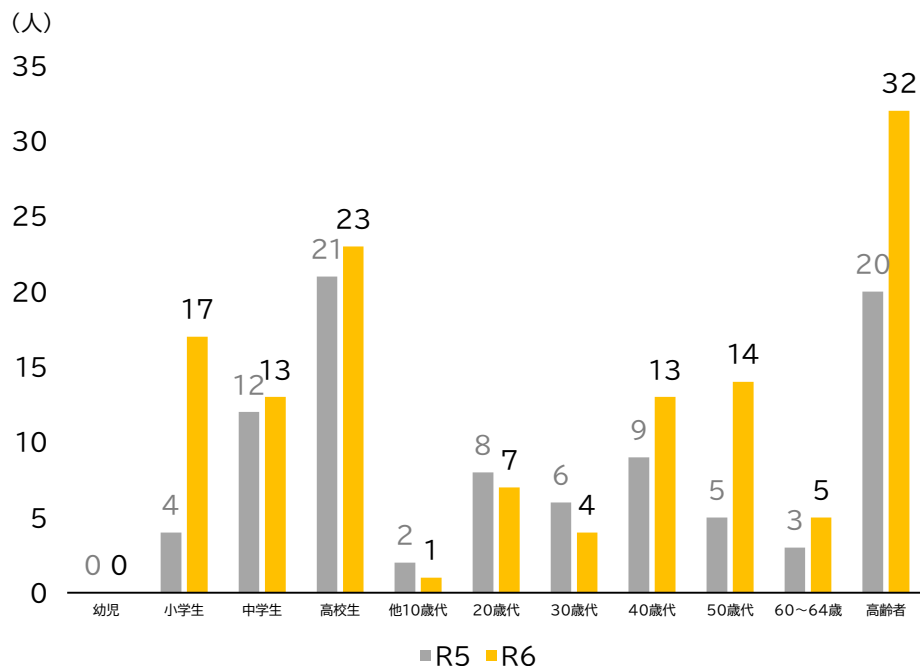
(注1) 法令違反の件数は、第1当事者と第2当事者の合計。
 (注2) 調査不能は、違反不明として計上。

- ・自転車乗用者の約9割に法令違反あり
- ・特に安全運転義務違反、交差点安全進行義務違反が多い

3 自転車関連交通事故の発生状況

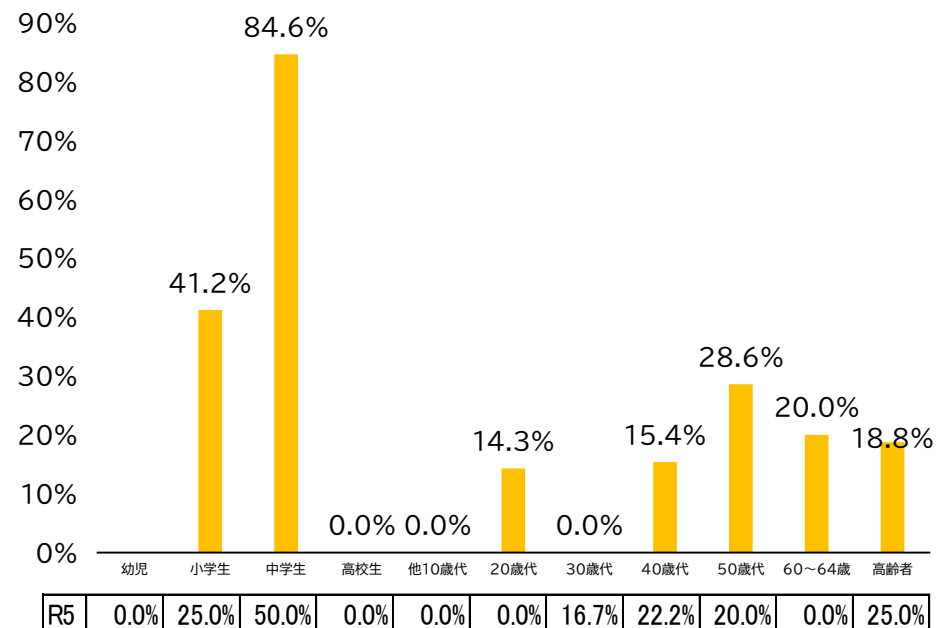


年代別・自転車乗中死傷者数



- ・前年に比べ小学生(+13人)と高齢者(+12人)の増加が顕著
- ・高齢者(32人)、高校生(23人)、小学生(17人)の順が多い

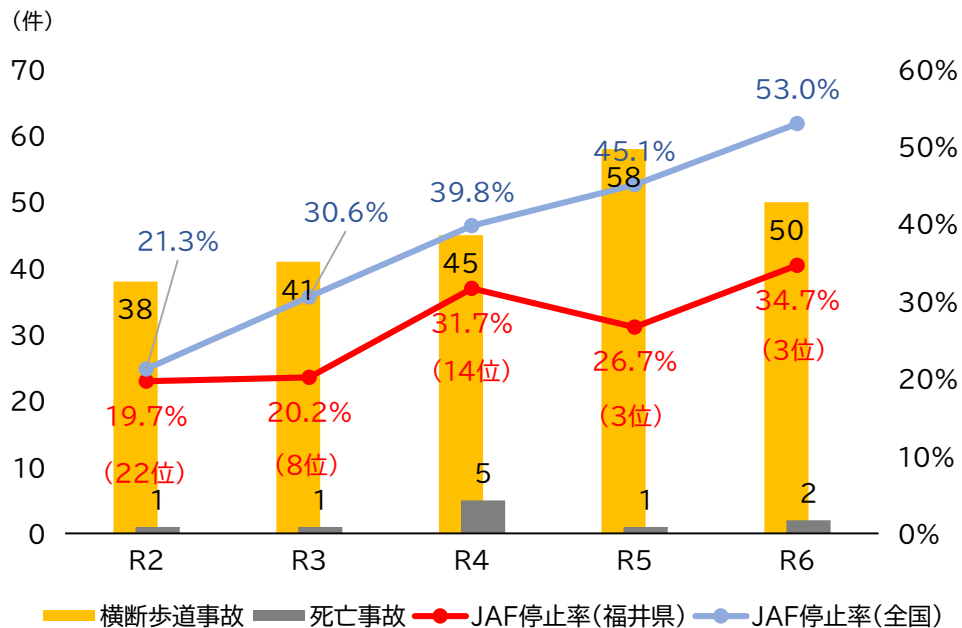
年代別・自転車乗中死傷者のヘルメット着用率(R6)



- ・全体の着用率は、24.8%で、前年に比べ7.0pt上昇
- ・前年に比べ小学生(+16.2pt)と中学生(+34.6pt)の上昇が顕著

3 横断歩道横断中の歩行者が関係する交通事故発生状況

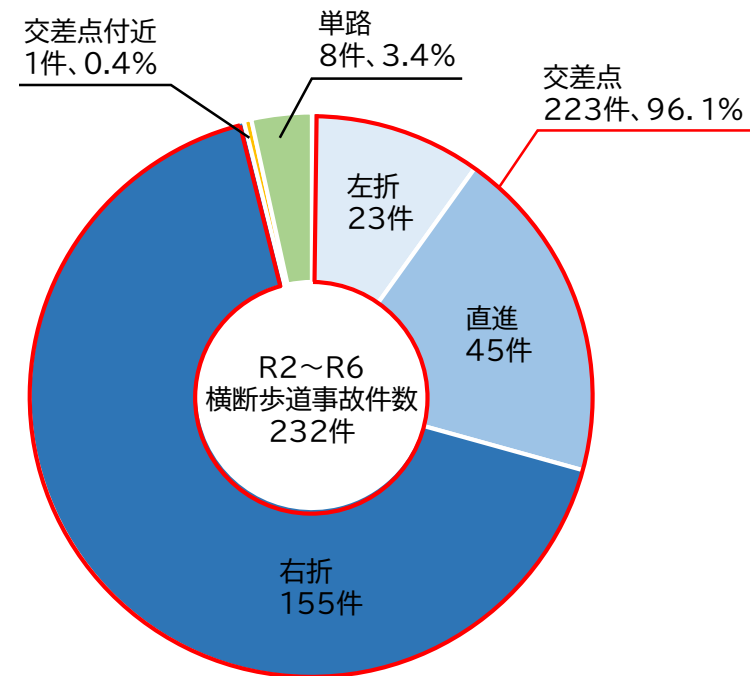
横断歩道横断中の歩行者が関係する交通事故件数及び信号機のない横断歩道における車両の一時停止率(JAF調査)



(注) 「横断歩道横断中の歩行者が関係する交通事故」とは、横断歩道横断中の歩行者が第1又は第2当事者となる事故をいう。

- ・前年に比べ8件減少
- ・一時停止率は、前年に比べ8.0pt上昇するも2年連続全国ワースト3位

道路形状別・横断歩道横断中の歩行者が関係する交通事故件数 (R2~R6)



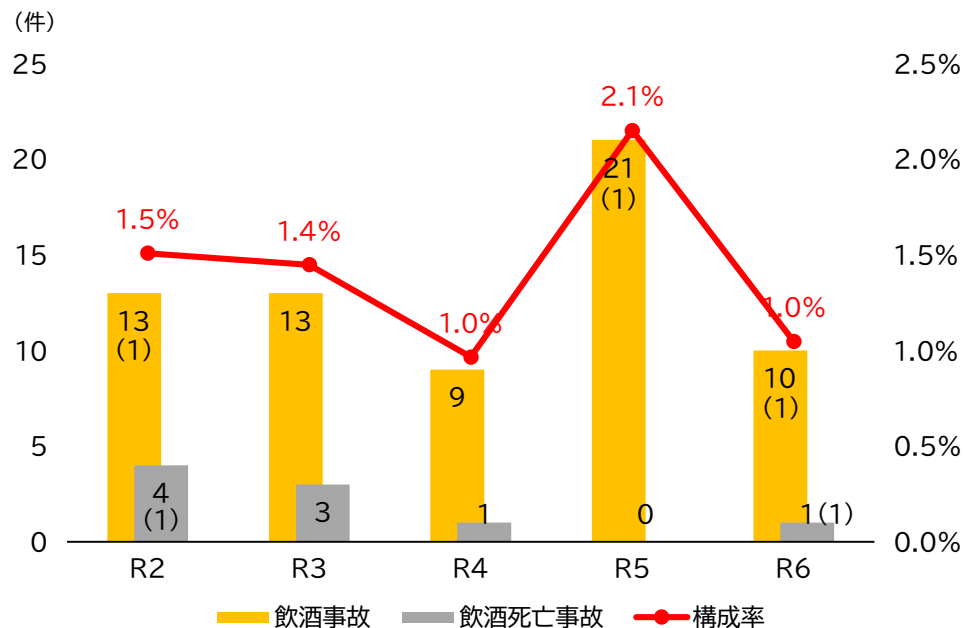
(注1) 件数は、「信号機あり」と「信号機なし」の合計。
 (注2) 「交差点」については、車両(第1・第2当事者)の進行方向を記載した。

- ・横断歩道事故のほとんどが交差点で発生
- ・交差点での横断歩道事故の約7割は車両が右折する際に発生

4 飲酒運転による交通事故の発生状況



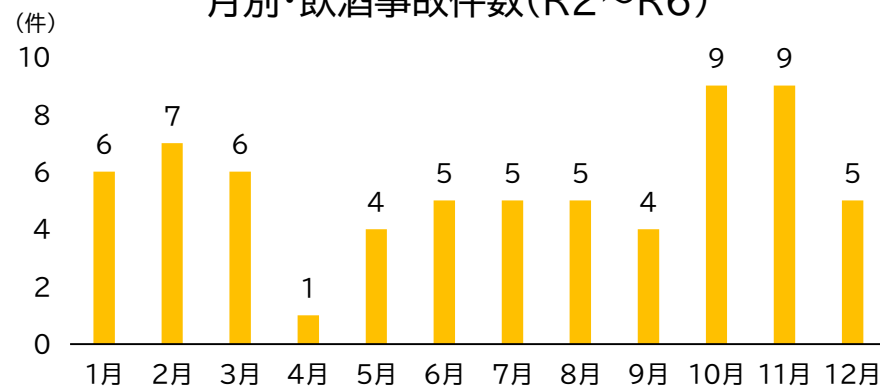
飲酒事故件数及び人身事故に占める割合



- (注1) 「飲酒事故」とは、第1当事者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当する人身事故をいう。
- (注2) 構成率は、第1当事者が運転者（自転車含む）となる人身事故件数に占める飲酒事故件数の割合。
- (注3) カッコ内数値は、自転車乗用者が第1当事者となる件数。

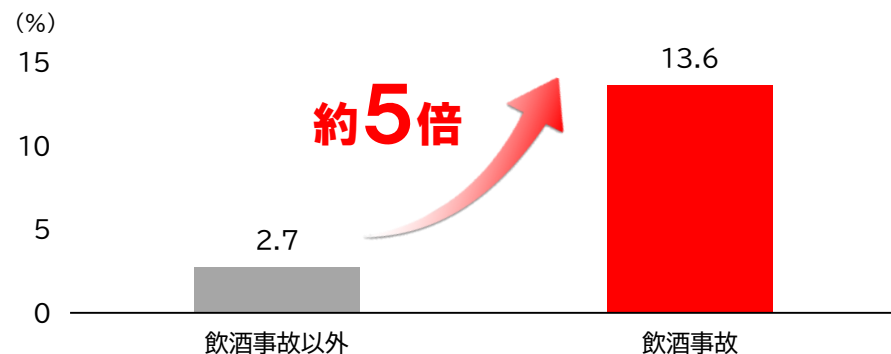
・前年に比べ11件減少
 ・飲酒運転による交通死亡事故は、過去5年間で9件発生

月別・飲酒事故件数(R2～R6)



通年で発生、特に10月と11月が多い

飲酒有無別死亡事故率(R2～R6)



- (注1) 「死亡事故率」とは、第1当事者が運転者（自転車含む）となる人身事故件数に占める死亡事故件数の割合。（死亡事故率=死亡事故件数÷交通事故件数×100）
- (注2) 「飲酒事故以外」には、調査不能を含む。